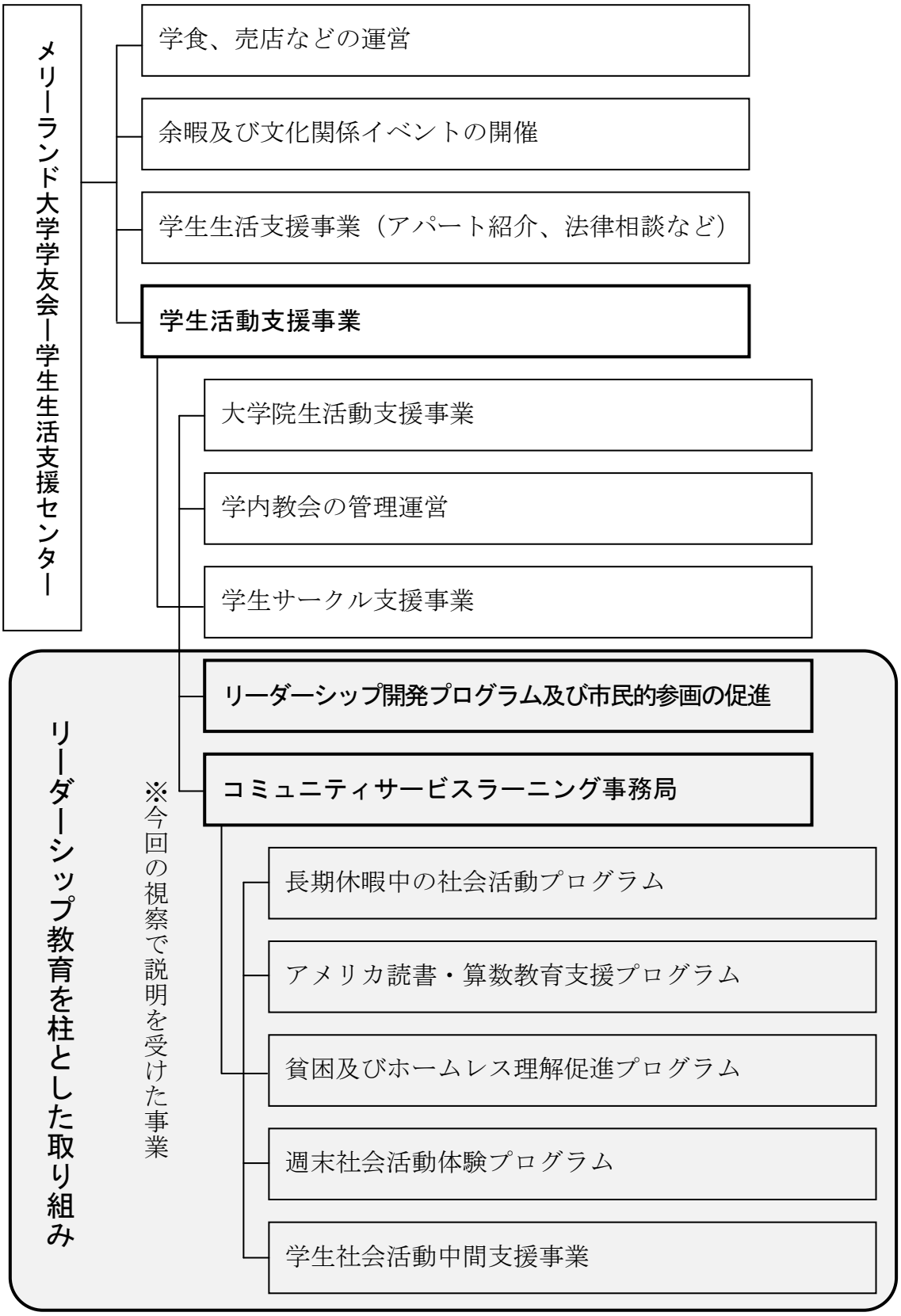
Ⅰ．メリーランド大学学友会コミュニティサービスラーニング事務局

Community Service-Learning, H. Stamp Student Union, University of Maryland

１．学友会コミュニティサービスラーニング事務局の概説



１）「市民的社会参画（Civic Engagement)」及び「リーダーシップ教育」

コミュニティサービスラーニング事務局では，社会的変革をもたらす学生のリーダーシップ及び市民的社会参画（Civic Engagement)」の促進を目指している．

市民的社会参画（Civic Engagement）とは，ボランティア活動，地域奉仕活動，サービスラーニング，アドボカシーなど様々な市民的な行動を意味する包括的な用語である．

リーダーシップ教育は，学生が NPO などにおけるサービスラーニング，実習や社会的起業など様々な活動の場面において成り立っている．近年、リーダーシップの概念が急速に変化するなかで，特に市民的社会参画（Civic Engagement）の当事者側から求められる新しいリーダーシップの促進を目指している．

２） リーダーシップの価値基準の時代変化

1970 年代：ビジネスにおいて求められるリーダーシップ

1980 年代：より普遍性のあるリーダーシップ

1990 年代：地域における関係共有モデル（非階層型）リーダーシップへの進化

2000 年代：当事者の置かれた場面ごとに何のために発揮されるのかを深めたリーダーシップ

（メリーランド大学の風景）

アメリカではリーダーシップ概念が急速に変化し，この 40 年でその意味合いは異なってきている．1970 年代においてはビジネス界でのリーダーを指し，80 年代には包括的意味合いでのリーダーを指し，地域におけるリーダーなども含まれてきた. 90 年代には, 関係共有型のモデルとしてリーダーシップの概念が進化し，ピラミッド型の階層型ではないリーダーシップが広まってきた. 2000 年に入ってからは，誰のための、何のためのリーダーシップであるかが重視され，それぞれの社会的な文脈の中でリーダーシップのあり方を深めることが課題になっている．

３）全国リーダーシッププログラム情報センター

(National Clearinghouse for Leadership Programs)

メリーランド大学学友会が事務局となっている全国のネットワーク組織である．現在，リーダーシップの教育者や専門家約 400 名が会員として加盟している．リーダーシップ教育に関する全国集会，研修，出版，情報蓄積発信，研究を行っている．

４）メリーランド大学学友会が行うリーダーシップ教育の特徴

1972 年からリーダーシップ教育に取り組み，全国のネットワークの中心となっている．

学内には，学友会が担当しているリーダーシップに関する 8 から 12 の主専攻及び副専攻科目があり約 250 名の学生が履修している．受講生の大部分は学部学生であるが，修士課程にもプログラムは導入されている．

リーダーシップの教育と実践に関する先進的な取り組みとして，学生が主体となりリーダーシップ教育の重要な要素としてサービスラーニングを取り入れている．教授と学生の双方が一緒に

取り組み，実践と理論の融合を目指し学生主体のプログラムを重要視している．

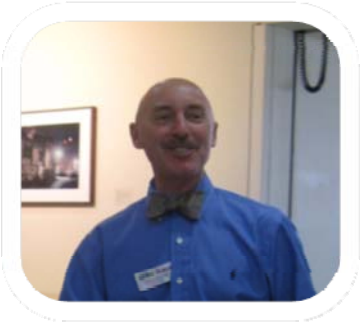
【説明者の紹介】

■クレイグ・スラック（Mr. Craig Slack）

学友会事務局次長、リーダーシップ・コミュニティサービスラーニング担当部長

■ケイティ・ハーシー（Ms. Katie Hershey）

アメリカ読書・算数教育支援プログラム及びコミュニティサービスラーニングコーディネーター



2. コミュニティサービスラーニング事業プログラムの取り組み

１）事業プログラム

ここでは４つのプログラムについて説明をうけた。

（１） 学生社会活動中間支援事業（Terps for Change）

学生リーダーが，社会活動を希望する学生の相談を受けながら地域団体と活動を調整する。学生リーダー達は，月１回の振り返りを行いながら支援事業を展開している．

（２）貧困及びホームレス理解促進プログラム（Hunger and Homelessness Awareness Week）

秋に１週間をかけて行われる，貧困とホームレス問題の理解を広げるイベントに参加するプログラム．

（３）週末社会活動体験プログラム（Terp Service Weekend）

４月の週末に多様な地域活動団体の中で社会活動を行う２日間の体験プログラム．

（４）長期休暇中の社会活動プログラム（Alternative Breaks Program）

春期，夏期の長期休暇中に国内外で行われる社会活動旅行プログラム．12 名から 15 名のグループで、１週間から 10 日間の合宿形式による社会活動を行う．

２）事務局による事業運営に関する工夫

（１）学生のモチベーションに対して

学生の理論的批判的思考力（Critical Thinking）を高める社会活動の機会を提供するために，個別の相談対応と広く参加を呼びかける広報を行っている．また，学生同士が相互に社会活動を継続する動機づけを行うようにグループ活動を基本にしている．

この活動に興味の無い学生や積極性のない学生たちに対して，アウトリーチやアドボカシーを通して，サービスラーニング導入段階で興味をもらえる支援をしている．

（２）リフレクション（Reflection）に対して

ゲームを取り入れるなどの企画を通して主体的な学生同士の振り返り（Reflection）の機会を設けている。特に休暇を活用したプログラムでは，学生相互でのリフレクションを最も重視している．

（3）評価に対して

サービスラーニングは授業として位置づけられ、その評価基準は予め示してあり相対評価ではなく絶対評価を基本としている.

社会活動を通して学んだ成果（Evaluation）は，様々な観点から 5 段階で評価し，自己評価票への記入は，活動前と活動後におこなっている．また，学生の人生を変えるような経験や学びについては，直接スタッフが学生にヒアリングを行いその成果を確認している.

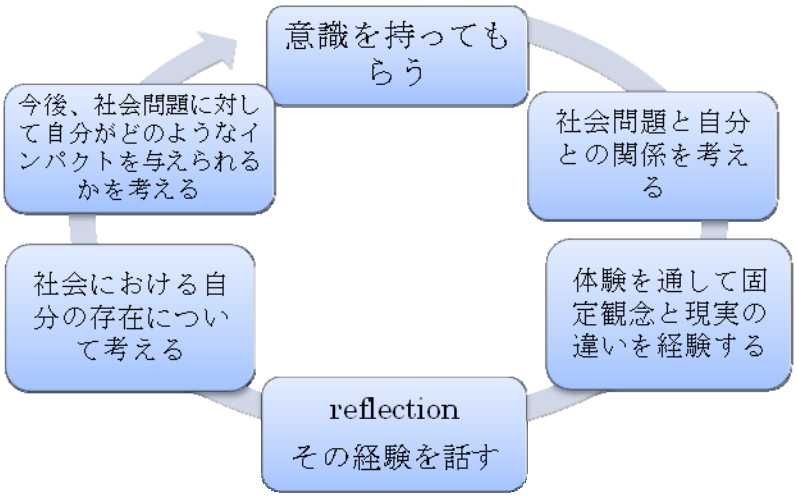
また，活動先地域からの評価は，活動後に学生とコーディネーターとが一緒にフィールドに出向き活動先担当者からスーパービジョンを受けている.

このように活動先からの評価は，訪問や連絡などを通して得るように努力しているが、現状では人員や時間の制約により限界がある。

３）コミュニティサービスラーニング事務局が考える批判的な思考力について

批判的な思考力とは，複雑な社会課題を理解して社会を変革する思考の力であり，学生は現実を見て，聞いて，話して，そこでの体験を学生同士で話し合い理解を深め，何らかの社会活動を行うというプロセスを通して高めていくものである.

例えば次のようなプロセスがあり, 大事なことは論理的･批判的に思考するという過程を, 学生の成長のためのツールとして有効活用していくことである.



【説明者の紹介】

■エリアル・アンダーソン（Ms. Aeriel Anderson）：コミュニティサービスラーニング担当／大学院生

彼女は大学院生として，学生委員やボランティアとのコーディネートを担当している．学生がどのようなプログラムに興味があるかを学生に確認し活動先を調整している．また，キャンパス内のイベントも企画している．現在は，パートとして週 20 時間勤務している.

■メイエン・フイ（Ms. Mei-yen Hui）：コミュニティサービスラーニング　担当／大学院生：休暇を通した課外活動としてプログラムを担当している.

（左からフイ氏　アンダーソン氏）

3. リーダーシップ開発プログラム

1）リーダーシップ開発課外プログラム（Co-curricular Leadership Programs）

(1) 学生リーダーシップ委員会（Peer Leadership Council）

この委員会は，大学院生と学部の学生（4 年生中心）で構成されるリーダーシップ開発課外プログラムの運営組織である．学生相互のピアベースの実践となるため，この委員会にはリーダーシップ開発プログラムを受けた経験があり，成績が GPA2.5 以上の学生であることが委員会選考試験の要件であり面接により選抜される．

（2）リーダーシップ開発キャンプ（Turtle Camp）

新入生及び学部編入 1 年生を対象にしたリーダーシップ開発のためのプログラムである．プログラムは秋に 6 週間、毎週 1 回 90 分の講座が開講される．指導者は，学生リーダーシップ委員会とリーダーシップ教育指導者（大学職員及び学生）が務める．

この講座は，学生の自己認識を高め，人と人とをつなぐために必要なスキルを身につけることを目的としている．様々なワークショップが含まれ，自己認識を高めるリーダーシップとは何か学問的視点から展開される．

このプログラムは，幅広い学生に参加してもらうため，特に出願条件は設けられていない．

(3)リーダーシップ開発研修プログラム（Terrapin Leadership Institute）

このプログラムは，約 6 週間にわたるリーダーシップ開発のための研修プログラムである．定員 15 名で毎週 1 回，90 分の講座が開講される．指導者は，学生リーダーシップ委員会のメンバーと学外講師が務める．テキスト「The Leadership Challenge」に基づいて構成されている．

2）リーダーシップ集会プログラム（Leadership Conference）

（1）メリーランド大学リーダーシップ集会（Maryland Leadership Conference）

この集会は，31 年間続く歴史あるプログラムとして定着している．学外で秋に 2 日間泊まり込みで集会を開いている．集会の進行は，学生リーダーシップ委員会のメンバーとリーダーシップ教育指導者（学生）が行う．リーダーシップ開発プログラムを担当する大学職員も参加し，学生たちとの関係つくりの場として大事にしている．

集会で話し合った社会課題やそれを解決するための社会活動モデルは，集会終了後に実践することが期待されており，そのための支援（助成金など）もある．

（2）MOSAIC 多様性と社会正義に関するリーダーシップを考える集会
（MOSAIC Diversity & Social Justice Leadership Retreat）

この集会は，参加者のアイデンティティを確認することにより，多様性や社会正義についての理解を深め，リーダーシップとは何か，内省的に考え合うプログラムである．時期は，2 月の週末に 1 泊 2 日の泊まり込みで行われ，指導者として学生リーダーシップ委員会の学友会職員が指導している．毎回の参加者は 40 名程度である．

（3）メリーランド大学学生団体ネットワーク会議（ONE　UMD President's Conference）

※ONE：Organizing, Networking & Empowerment の略

この会議では，学内にある約 560 の文化系学生団体やサークルのリーダーが集まり，互いの組織強化のために、運営に関する課題を共有し合う会議である．また，共通の目的を発見することで新たなネットワーク形成にもつながっている．学友会の主催により，学生自治会，同窓会，学長室との共催で行われる．

３） リーダーシップ開発主専攻及び副専攻科目（Academic Leadership Courses & Minor in Leadership Studies）

リーダーシップに関連する科目（EDCP Leadership Classes）は，800 名の学生が登録し，各科目のクラスサイズは約 25 名である．EDCP とは，Education, Counseling, & Personnel Services の略称である．

この科目は，リーダーシップ教育の指導について，専門性を持つ大学職員と学生がチームとなり指導を行う．

この科目の指導者は，年 1 回，4 時間から 5 時間のピアリーダーシップ技術研修を 3 年から 4 年継続して受講し，ファシリテーション，傾聴法，対立解決法，リーダーシップ理論と歴史的変遷などを学ばなければならない．

以下この科目の 5 つを紹介する．

(1) リーダーシップ入門（Introduction to Leadership）

1.2 年生を対象として基礎的な自己の振り返りを通したリーダーシップ開発講座

(2) グループ・組織内リーダーシップ論（Student Leadership in Groups and Organizations）

組織の中でのリーダーシップ理論や様々な組織環境において応用能力を高める講座.

(3) 状況別リーダーシップ応用論（Applied Contextual Leadership）

学生自治会，学生団体，スポーツ活動，多文化対応部署など，特定の役割を担う際のリーダーシップ応用理論と実践講座.

(4) 特定主題別リーダーシップ論（Special Topics in Leadership）

各人種，性別，性といった特定のテーマに関わるリーダーシップのあり方を研究分析する個別講座.

性（LGBT）に関する授業では，歴史，人権，学問的理解など様々な観点からリーダーシップのあり方を学び，個としてのリーダーシップのあり方のみでなく，社会的集団の中でこの問題についてどのようなリーダーシップを発揮すべきかを学ぶ.

(5) リーダーシップ先進理論ゼミ（Advanced Leadership Seminar）

他のリーダーシップ科目の単位を取得した学生向けのリーダーシップ理論総合的講座．これまで学んだ理論を分析し統合して理解を深めるゼミ.

４）危機管理と評価について

科目評価は，振り返りの小論文，リーダーシップ実践のパフォーマンス評価とペーパーテストなどを組み合わせて行う．チェックリスト化したフォーマットがあり，1 クラスを 2 名の担当者で評価する．

危機管理として，課外プログラム等の際に大学が提供する旅行傷害保険をかけたり，移動の際の公共交通機関の利用状況について申告させたりしている．

【説明者の紹介】

■ラムジー・ジャバジ（Mr. Ramsey Jabaji）
　リーダーシップ開発プログラム担当コーディネーター

■マット・ジョンソン（Mr. Matt Johnson）
　リーダーシップ開発プログラム担当アシスタント／大学院生

■ダニエル・オスティク（Mr. Daniel Ostick）
　リーダーシップカリキュラム開発・教科連携担当コーディネーター

（写真：左から、オスティク氏、ジョンソン氏、ジャバジ氏）

4. 市民的社会参画（Civic Engagement）の促進について

1）市民的社会参画（Civic Engagement）

市民的社会参画とは，「高まりつつある地域社会における個人の責任に応じた活動」であり，ボランティア活動，サービスラーニング，奉仕活動から政治活動までを含む包括的な概念である．

Civic　Engagement については，概念が定説になっているわけではない．むしろ日々変化しているといってもよい．活動者側からは具体的な状態として用いられることもあるが，それぞれの用語には，いろいろな主義や立場によって異なる見解が示される．

Civic Engagement は，できるだけそれらを包含するような概念として用いられている．

とりわけオバマ大統領は，若い頃，コミュニティオーガナイザーとして貧困地域で活動しており，彼自身が Civic　Engagement について具体的に実践してきている．今後の政策にそのことが反映されることが期待されており，Civic　Engagement は key　concept として注目されている．

そして，複雑な要因による社会の課題は，単一の取り組みで解決することはできない総合的なアプローチが必要であるという考え方を示す概念でもある．例えば，学生たちがホームレス問題について，単に本人に問題があると考えるのではなく，実際にホームレスシェルターを訪れて炊き出しなどを一緒に行い，そこから課題となる社会的背景を考え、ホームレスにならない根本的な問題課題に向けてどのような支援が必要なのか、自ら気がつくことが大切である．そして，その気付いた課題に対して，実際にアプローチすることを市民的社会参画と呼んでいる．

このようにサービスラーニングは，問題への直接的な支援だけでなく，就労や教育，社会

保障など政策的な問題にも学生達が気づいていけるようなプログラムが重要である．

テーマとしても，貧困問題，ホームレスだけでなく，地域の環境問題，教育問題など，幅広く学ぶ事で学生達は，サービスラーニングを受けることにより将来大事な役割を果たすことにつながるのである．

また，医師や弁護士等も Civic　Engagement の考え方を理解しておくことが大切である．例えば弁護士が Civic　Engagement をサービスラーニングにより体験的に理解していれば，犯罪者が金銭的に恵まれない状況を真摯に受け止め，彼らを弁護するようになる．

このように地域における個人の責任感を高めていく市民的社会参画の教育手法には，様々な方法があるが，最も効果的な方法のひとつがサービスラーニングである．

２）サービスラーニング導入における教員支援

サービスラーニングを導入する教員には，担当する科目の学習目標を確認し，指導手順として社会活動と関連したプログラムづくりを支援する．

例えば，家庭内暴力をテーマとした心理学の科目は，家庭内暴力についての研究的学習や，実際に女性シェルターで，当事者と一緒に法的問題解決に向けた社会活動を行う．学んだ理論と実践を深めるシラバス作りをアドバイスしている．このように，サービスラーニングは，実体験と学問の結びつきが重要とされる．

その他の支援として大学院生などのティーチングアシスタント（TA）の配置や資金面での援助もおこない，パートナーとなる地域とのコーディネートも行う．

３）市民的社会参画リーダーシップ連合（Coalition for Civic Engagement & Leadership）

学生の市民的社会参画を促進するための学内連合組織である．市民的社会参画に関する学内の様々な情報を集め，ウェブサイトで紹介している（http://www.terpimpact.umd.edu/）

４）実習，インターンシップとサービスラーニングの違い

実習は専門的技術を高めることを目的としているが，サービスラーニングは市民的社会参画のための動機づけが目的である．サービスラーニングは，将来の多様なキャリアにおいて応用できる批判的思考やリーダーシップの力を高めることになる．

サービスを提供する一方で双方の相互利益を確立させることを基本と考えるサービスラーニングは，振り返りが含まれないインターンシップと異なる．

そして，サービスラーニングではコミュニティベースの実践が特徴とされ，将来、ソーシャルワーカーとして仕事をする際にも，社会全体のために必要をされる活動について理解できる人材をサービスラーニングでは育てたい．特にソーシャルワーカーは社会ニーズを見極めて働くことが仕事であり，この基本的な視点を育成するためにはサービスラーニングが必須であると考えている．

５）大学組織に対してのサービスラーニングの認知レベル

学内でサービスラーニングを周知し合意を得ていくことは，とても重要であるが難しいことでもある. 現在､web やニュースレターなどを活用してできるだけ多くの情報発信につとめている.

学生に対しては，英語の入門クラス（必修で約 5000 人が受講）のテーマが「Civic Engagement」の内容のレポート論文を課題としている．また，性別による Civic Engagement やサービスラーニング，ボランティアへの関心の違いをリサーチした結果，女子学生の方が圧倒的にサービスラーニングに高い関心を持っていた.

サービスラーニングのアプローチ法の研究では，多くのリサーチがあり，その中でも Campus Compact（全米の大学サービスラーニングに関する組織 ; 1985 年設立）が有名であり，国際カンファレンスでも多くの研究報告が出される.

【説明者の紹介】

■バーバラ・ジャコビー教授

（Prof. Barbara Jacoby）

学友会管理部門上級研究員／市民的社会参画リーダーシップ連合委員長

5. アメリカ読書・算数教育支援プログラム（America Reads * America Counts）

貧困層や英語を母国語としない子ども（スペイン語母国語が 8 割）が多いプリンスジョージ郡の 17 の公立小学校で，放課後に週 2 回，サービスラーニングの学生達が国語と算数の指導を行っている．登録学生は 180 名，活動前には指導方法についての研修をうけ活動継続期間は，最低でも 1 学期間は続ける．

履修している学生は，サービスラーニングの単位取得のためや，社会活動奨学金（Federal Work Study）を得るために参加する場合もある．

小学校の教員は，多忙であり困難な状況に置かれているが，このプログラムの実施について理解されている．

6. カルバートン小学校読書・算数教育支援プログラム見学

（Calverton Elementary School）

1）活動の内容

この活動は，小学校 3，4 年生のグループ（3 名から 4 名）を学生 1 名が担当し，週 2 日，2 時間，宿題と補習の手伝いをしている．

対象となる小学生は，成績が思わしくなく，教室で問題の多い子どもたちを担任教員と相談して選ぶが，一部の保護者からの要望もある．

このプログラムが開始されて 5 年目に入るが，子どもの成績が向上するという成果が出ている．学生は 1 学期間，同じグループを指導するが，問題を起こした場合はグループを移動する場合もある．

2） 学生の評価

学生の評価は，各学期の終わりにコーディネーターが面接して評価をおこなう．活動内容については，学生チームリーダーが評価して，問題があればミーティングで指摘する．過去に 1 回だけ，野外活動の指導は得意でも教室での学習指導には向かない学生を活動から外したことがある．

（写真：左からウァイバー氏、ハーシー氏）

【説明者の紹介】

■ケイティ・ハーシー（Ms. Katie Hershey）

：アメリカ読書・算数教育支援プログラム及びコミュニティサービスラーニングコーディネーター

■ゲール・ウァイバー（Ms. Gale Waibel）

：カルバートン小学校算数専門教員／読書・算数教育支援プログラム受入担当者